

3月の園だより

社会福祉法人のぞみの会
大塚保育園
大塚子どもふれあい館
園長 石坂 芳
令和7年3月1日発行 No.492

今年の冬は各地で大雪の便りが聞こえてきましたが、ここにきて急に暖かい日が続いています。梅の花も咲き、桜の便りも聞かれる今日この頃、春がすぐそこまで近づいていることが感じられます。年長さんは保育園生活もあと1か月で終わりですね。保育園生活はいかがでしたか。新しく始まる小学校生活に希望をもって、楽しい毎日を送ってください。在園児の皆さんは進級です。ひとつ大きなお兄さんお姉さんになりますね。新しいお友だちを迎えて、新しいクラスを楽しみに、これからの保育園生活を送ってください。1年間、保護者の皆様には保育園の運営にご理解、ご協力いただきありがとうございました。令和7年度もご協力をお願い致します。

園長

クラスコラム

ゆめぐみ

個別活動も遊びもお友だちと“一緒に!!”が、好きなゆめぐみさんです！お友だちの真似をしたり、一緒に何かをすることが増えてきました。お友だちのことが大好きでお互いに名前を呼びあったり、お世話をあげたりなどとても仲良しなゆめぐみさんです！！

ひよこぐみ

みんな座れたね～

いっぱい
あけるようになったよ～



お外に出かけるのが大～好き！公園であちこち探索中・・・。お兄さんお姉さんと一緒にごっこ遊びや追いかけっこもちょっぴり参加。そして必ず！・・・ベンチでひと休み♡日々外遊びを満喫しているひよこ組です。

いない
いない
ばあっ！



これ！
もらえるんですか？



幼児クラス

年長さんが小学校見学に行ってきました！机も椅子も大きいね！これは何かな？と興味津々！一年生のお友達が小グループに別れて教室や体育館音楽室や図書室などお部屋を案内してくれました！ドキドキ ワクワク！小学生になるのがもっと楽しみになりましたね！！

おねがい

＜新年度の書類提出について＞

勤務調査表等をお配りいたします。記入の上提出をお願いします。提出期限は **3月6日(木)** です。

＜～園のしおり～について＞

令和7年度〔園のしおり〕は《保育編》《保健編》を後日、コードモン資料室にて配付いたします。変更点等ありますので、よくご覧ください。

＜来年度の行事予定について＞

コードモンより対象クラスの行事予定が観覧出来るよう準備中です。準備が出来次第お知らせ致します。

【懇談会の参加有難うございました】

0.1歳児は動画を見て園での様子をお伝えしました。全クラスで園長より以下についての話がありました。

- ① 幼児クラスは **3/12(水)4クラスの発表**があります。新担当発表は3/17(月)になります。
- ② **3/17(月)より新幼児クラススタート**となります。年長児は3/17(月)より合同で小学校進学に向けて生活を致します。
- ③ 今年度行われていました“うたのじかん”は、午後の自由遊びを大切に、リトミックの時にいきます
- ④ リトミックの時間は個別活動の時間を大切に11時から行います。

☆ **つき組うさぎ組共に3/24(月)より、本園幼児クラスでの生活が始まります。**

☆ **0.1歳クラスのお子さんは3/24以降、新しいクラスでの生活が始まります。**

3月の予定

1日(土) 新入園児説明会
5日(水) 乳児健診・新入園児健診
7日(金) 誕生会&お別れ会

13日(木) 卒園式リハーサル
14日(金) 卒園式リハーサル
15日(土) 卒園式

19日(水) お別れ遠足(年長)
21日(金) お別れ遠足予備日



モンテッソーリ教育の「教具」とは

モンテッソーリ教育に興味をお持ちのみなさんは、「教具」という言葉を耳にしたことがあるかもしれませんが。教具とはモンテッソーリ教育で使用する道具のことです。中には、「こどもが教具を使って活動すること＝モンテッソーリ教育の実践」と捉えられている方もいるかもしれませんが。しかし、**教具はあくまで「こどもの発達を助ける」ための、モンテッソーリ教育のひとつの要素**です。モンテッソーリ教育を実践する上で何より大切なのは、モンテッソーリ教育の目的や理念を理解し、その考え方を日々のこどもとのかかわりに活かしていくこと。そして、こどもを観察して、いまのこどもに適した環境を整えることです。ここでは、モンテッソーリ教育の教具の特徴や目的を見ていきましょう。

＜教具にはどんな特徴がある？＞

モンテッソーリ教育の教具は、一般的な玩具と異なり、**こどもの成長に応じて発達を促すという目的**を持っています。そのため、活動に合わせ**特定の目的に絞って作られている**、もしくは**それぞれの活動には必ず目的がある**という特徴があります。特に感覚教育で用いられる教具は、限定した「ひとつの特性」に沿って作られています。たとえば、立方体の大きさを感じる教具「ピンクタワー」は、こどもが「大きさ」という「ひとつの特性」にフォーカスできるよう、色と形は同様に、大きさだけが異なって作られています。その他にも、感覚教育の項で触れた「赤い棒」という教具は、「長さの違い」だけに焦点を置いているものだとご紹介しました。一般的な玩具の中には、「見る、押す、聴く…」などいくつもの特性を兼ね備えているものもありますが、教具はこの点で大きく特徴が異なることがわかります。

＜教具を使う理由とは？＞

それでは、モンテッソーリ教育ではなぜ教具を使用するのでしょうか。それは、**よりこどもの発達を助けるため**です。あらゆることを環境から吸収し、その吸収したことで元人格形成をしているこども。その際に、こどものやりたいこと、知りたいことにより特化し、注目が集められるような教具があることで、こどもはより集中して取り組み、具体的に自分の中に取り入れていくことができます。「発達を助ける」とは、こどもの**内側から出る「やりたい!」「知りたい!」という欲求**を叶え、発達段階ごとに「できる」よう実現のお手伝いをするのです。モンテッソーリ教育では、その役割を担う大人(人的環境)の存在だけでなく、教具を含む物的な環境を整えることで、こどもの発達をサポートしていきます。今のこどもの欲求や発達に見合った活動や教具が環境にあり、こどもはそれを自己選択して、満足するまで経験することで、自分を作っていきます。

【モンテッソーリ教育の生みの親、マリア・モンテッソーリ】

Doctor Maria Montessori (1870-1952) Italianaans pedagooog en arts

マリア・モンテッソーリは、1870年8月31日、イタリアのキアラヴァッレという小さな町に生まれました。まだ社会全体が男性中心で女性が地位を獲得することが困難だった時代に医学の道へ進み、1896年、**イタリア初の女性医師のひとり**となります。ローマの精神病院に勤務し始めたマリア・モンテッソーリは、療育研究を通し、**こどもの感覚的欲求を刺激する「感覚教育」の効果を発見**。1907年には、**ローマのスラム街で貧困層のこどもたちを集めた保育施設「子どもの家」**を開設し、ここで独自の教育法モンテッソーリ教育を確立します。その後、ヨーロッパやアメリカを中心にモンテッソーリ教育の研修会や講演会を開催、さらには教育についての執筆活動も開始したマリア・モンテッソーリは、ついに**医療の道を諦め、教育活動に専念**することになります。こうした積極的な活動に加え、「医学者の研究に基づく科学的な教育法」という説得力も手伝い、モンテッソーリ教育は徐々に世界へ広がっていきました。しかし実際、彼女が生きた時代は厳しく、社会的性差だけでなく、**ファシズムや戦争など多くの困難**が付きまといました。イタリアのムッソリーニ政権やドイツのナチスによるモンテッソーリ教育の弾圧、そして世界大戦などの影響から、彼女はヨーロッパを離れることを余儀なくされ、**終戦までの7年間をインドで過ごすこと**になります。こうした時代を生き抜いたからこそ、マリア・モンテッソーリは「**教育の力により社会は整い、平和につながる**」と**平和教育の大切さ**も訴え続けました。戦後、**晩年の拠点オランダ**に戻ったマリア・モンテッソーリは、1952年5月6日、81歳で亡くなる前年までひたむきに教育活動を続けます。マリア・モンテッソーリが息子マリオ・モンテッソーリとともに1929年に設立した**国際モンテッソーリ協会(AMI)**は、今なお彼女の意思を引き継ぎ、オランダを基点に世界中でモンテッソーリ教育の実践と普及に努めています。

＜モンテッソーリ教育にもデメリットがある？＞

日本でも広くその名が知られるようになったモンテッソーリ教育ですが、「自由」というイメージが先行し、モンテッソーリ教育を受けることに対し不安の声を耳にすることも少なくありません。具体的には、デメリットに対してこのような声がかかります。こども主体の教育では、協調性が育まれないのでは？ 活発なこどもには合わないのでは？ 知育やお受験のためにする教育なのでは？ 集団生活になじめないこどもになるのでは？ うちのこどもの性格には向かないのでは？ こうした疑問にまずとても簡単にお答えさせていただくのであれば、答えはすべて「No」です。

モンテッソーリ教育とはどのような教育なのか、歴史や目指すところなども含め、園だよりの11月から3月まで読んでいただくと分かる通り、モンテッソーリ教育は**世界中のすべてのこどもに対して開かれた教育法であり、こどものタイプを限定するものではありません**。また、「こども主体＝何でも無秩序にできる」ということでも決してありません。モンテッソーリ教育が実践される環境では、**安心と安全が担保され、こどもたちが心地よく過ごすためのルール(制限)**が必ず設けられています。こども主体の教育とは、こうした**制限の中で、限りなく主体的に活動を行う「自由」が保障されている**ということなのです。この「自由」が保障された環境で、こどもたちは**自然と自分(個)を育み、さらに社会性を発達させていく**ことができるのです。